



週間情報



No.0733

発行日 令和7年9月2日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 第53回全国消防救助技術大会を開催

一般財団法人全国消防協会

令和7年8月30日（土）、兵庫県立広域防災センターにおいて、大沢消防庁長官、秋本公益財団法人日本消防協会会長、齋藤兵庫県知事をはじめ多くの来賓をお迎えし、第53回全国消防救助技術大会を開催しました。

開会式では、神戸市消防音楽隊の演奏により、出場隊員が力強く入場し、栗岡神戸市消防局長の開会宣言、消防殉職者に対する黙とうの後、国旗、大会旗の掲揚が行われました。

また、市川大会会長のあいさつ、来賓祝辞の後、出場隊員を代表して神戸市消防局の近藤隊員が宣誓を行いました。

本大会は、「Go Forward More ～「絆」とともに～」のスローガンのもと、各地区支部から選抜された約900人の隊員が出場し、陸上の部7種目、水上の部7種目、計14種目の訓練と陸上・水上の各部において技術訓練が行われた後、「（新）障害突破訓練展示」を実施しました。

水上種目では、今年度をもって最後となる「基本泳法」と「複合検索」において、出場した隊員は名残を惜しみつつ、堂々と訓練に臨んでいました。

技術訓練では、兵庫県東播・播但ブロック混成チームが陸上の部の訓練を行い、徳島市消防局が水上の部の訓練を行いました。

訓練展示では、神戸市消防局と大阪市消防局が来年度よりさらなる安全対策の強化を目的として、ルールの変更が検討されている（新）障害突破訓練を行い、隊員たちは、真剣なまなざしで見学していました。

出場隊員は、日ごろの鍛え抜いた救助技術と精神力を遺憾なく発揮し、会場からは大きな声援と惜しみない拍手が送られました。

閉会式では、各訓練の代表受賞者への表彰に続き、市川大会会長から講評が行われた後、栗岡神戸市消防局長から次期開催地の阿部新潟市消防局長に大会旗が引き継がれ、最後に、栗岡神戸市消防局長の閉会宣言により幕を閉じました。



【陸上の部】



【水上の部】

※ 大会の様子については、当協会機関誌「ほのお」9号（令和7年9月25日発行）に掲載予定です。

消防本部の動き

訓練

◆ 解体家屋を活用した実践的な消防訓練を実施

各務原市消防本部（岐阜）

各務原市消防本部では、令和7年8月5日（火）、8日（金）の2日間、解体予定の旧高齢者生きがいセンターを活用した実践的な消防訓練を実施しました。

この訓練は、近年、火災件数が減少し現場経験を積むことが困難であることから、経験が浅い隊員の知識・技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、猛暑の中、救助隊を中心に多くの隊員が参加し、間取りを把握していない施設内に煙を充満させ、より災害現場に近い環境下で屋内検索や放水を実施し、経験が浅い隊員から、「貴重な経験ができ有意義な訓練となりました。」との意見を聞くことができました。

今後も訓練を継続し、現場対応能力の充実強化を図るとともに、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 3消防本部山岳救助隊合同訓練を実施

湖北地域消防本部（滋賀）

湖北地域消防本部では、令和7年8月21日（木）、隣接消防本部である揖斐郡消防組合消防本部（岐阜県）および彦根市消防本部（滋賀県）と山岳救助隊合同訓練を実施しました。

この訓練は、山岳救助技術と現場知識を共有するとともに、関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、各想定訓練において要救助者の救出完了まで連携した活動を行い、関係機関と共通認識を深めることができ、効果的な訓練となりました。

今後も、現場活動能力の向上と関係機関との連携強化を図るとともに、より一層住民の安全・安心の確保に努めてまいります。



【合同訓練の様子】

研 修

◆ 安全運転研修会を実施

かほく市消防本部（石川）

かほく市消防本部では、令和7年8月6日（水）、安全運転研修会を実施しました。

この研修会は、緊急車両における安全な運転技術を習得することを目的として実施したものです。

当日は、運転経験の浅い職員からベテラン職員までが参加し、石川県警察本部津幡警察署の枝交通課長を講師としてお招きし、ご講義いただきました。

この研修会を通じて、交通事故の特徴を確認できたほか、公私問わず安全運転を心がける機会となり、ハンドルを握る者として責任を強く意識する有意義な研修会となりました。

今後も、市民の安全・安心の確保のため、関係機関との連携強化と技術の向上に努めてまいります。



【研修会の様子】

◆ 「農作業時における事故対応研修」を実施

阿賀野市消防本部（新潟）

阿賀野市消防本部では、令和7年8月7日（木）、株式会社新潟クボタ阿賀野営業所において、「農作業時における事故対応研修」を実施しました。

この研修は、稲刈りの時期を迎えるにあたり、農作業に起因した事故対応能力の向上を図ることを目的に実施したものです。

当日は、同社の技術者を講師としてお招きし、コンバイン、トラクター、田植え機の実車を用いながら、事故事例や機械の構造などについてご説明いただき、事故発生時の対応要領について再確認することができました。

今後も、研修で学んだことを踏まえ、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 「令和7年度救急医療関係者合同研修会」を開催

湖南広域消防局（滋賀）

湖南広域消防局では、令和7年8月8日（金）、草津市コミュニティー防災センターにおいて、当消防局職員、県内消防本部職員、医療機関職員、市職員を対象に「令和7年度救急医療関係者合同研修会」を開催しました。

この研修会は、傷病者への観察能力の向上を図ることを目的として開催したものです。

当日は、滋賀県立総合病院の野澤正寛医師を講師としてお招きし、「A B C Dの見方・考え方」をテーマとして、ご講義いただき、重篤な病態を早期に把握・察知して迅速な処置を行える知識を身に付けることができました。

今後も職員教育を継続し、能力の向上を図るとともに、市民の方々が安心して過ごせる地域社会を目指してまいります。



【研修会の様子】

◆ パワハラ研修を実施

橋本市消防本部（和歌山）

橋本市消防本部では、令和7年8月8日（金）、パワハラ研修を実施しました。

当日は、横浜市消防局鶴見消防署の阿部署長を講師として、オンラインにてご講演いただき、パワハラの定義、具体例、組織内で起こりやすい事例、部下や後輩との適切な接し方などを学ぶことができました。

また、緊張感と上下関係の中で業務を遂行する場面が多い消防の職場では、風通しの良い職場づくりが重要であることを改めて確認することができました。

安心して働ける職場は、安全な市民サービスの基盤であることから、今後も、定期的な研修や意見交換を通じて、ハラスメントのない職場環境を目指してまいります。



【研修の様子】

◆ 「令和7年度警防技術研修（火災調査編）」を実施

東近江行政組合消防本部（滋賀）

東近江行政組合消防本部では、令和7年8月21日(木)、22日(金)の2日間、各署の警防担当職員を対象とした「令和7年度警防技術研修（火災調査編）」を実施しました。

この研修は、火災の関係者から火災原因に関する情報を迅速・的確に聞き取る能力の向上を図ることを目的として実施したものです。

両日とも、火災発生後の現場を再現した、2つの模擬発掘用の想定ブースにおいて、火災原因究明のための発掘実習を行い、最終日の午後には、訓練用の火災調査書類を作成した後、各班がそれぞれの火災原因結果を発表しました。

参加した職員は、各所属で研修内容をフィードバックし、技術レベルの底上げを図ることができました。

今後も研修を継続し、火災の原因を究明して、類似火災の防止と火災予防の啓発につなげてまいります



【研修の様子】

その他

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

豊後大野市消防本部（大分）

豊後大野市消防本部では、令和7年8月18日（月）、消防協力者の4人に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年8月2日（土）、管内の川で流された児童に対して、消防協力者の4人が協力し、119番通報した後、中州から児童を監視しつつ、そのうち1人が泳いで救助を行い、救急隊に引き継いだものです。

消防長から、「救命において最も大切なことは「救命の連鎖」であり、今回はその連鎖により、尊い命が救われました。」と感謝の意を伝えました。



【贈呈後の記念撮影】

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

磐田市消防本部（静岡）

磐田市消防本部は、令和7年8月20日（水）、消防協力者に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年5月4日（日）、管内で発生した建物火災において、逃げ遅れた住民女性に対し、近くをランニングしていた消防協力者が避難誘導を行った後、救急隊が到着するまで適切な救急処置を実施したものです。

消防協力者の冷静な判断と適切な行動は、人命の救助に大きく貢献されました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 救急功労団体に感謝状を贈呈

多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部（群馬）

多野藤岡広域市町村圏振興整備組合消防本部では、令和7年8月22日（金）、救急功労団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年6月24日（火）に発生した救急事案において、勤務先で心肺停止となった50歳の男性社員に対して、社員一丸となって119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を迅速に行い、救急隊に引き継いだものです。

男性社員は、救急車収容後に自己心拍が再開し、医療機関へと搬送され、入院治療後に社会復帰しました。

また、表彰式には、自宅療養中のところ、ご家族全員で出席され、元気なお姿を見せていただきました。



【感謝状贈呈の様子】



【後列左から3人目が、社会復帰された、男性社員】

◆ 消防協力者に消防長から感謝状を贈呈

白山野々市広域消防本部（石川）

白山野々市広域消防本部では、令和7年8月22日（金）、消防協力者に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年8月7日（木）に石川県で線状降水帯が発生し、記録的な大雨の影響で冠水した地下道において、普通自動車の水没して車内に残された高齢男性に対し、現場付近にいた消防協力者が車外に救出したものです。

消防隊が到着した時には、車両は完全に水没しており、救出が遅れていれば男性の命に危険が及ぶ可能性がある中で、男性は怪我もなく無事に救出されました。この多大な功績に対して、消防長から感謝の意を伝えました。



【感謝状贈呈の様子】



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 電気火災予防啓発イベント「夏休み ビリっと電気火災実験室」を共同開催

仙台市消防局（宮城）

仙台市消防局では、令和7年8月6日（水）、7日（木）の2日間、HOKUSHU仙台市科学館のイベントブース「チャレンジ・ラボ」において、実験を取り入れた電気火災予防啓発イベント「夏休み ビリっと電気火災実験室」を共同開催しました。

このイベントは、科学館が掲げる「体験を通じて科学の原理にふれ、生涯にわたり学びの機会を提供する」との理念に基づき、広く身近に潜む火災危険を周知することを目的として実施したものです。

両日は、家族連れで満員となる中、子どもからお年寄りまでのさまざまな世代に参加していただき、電気が火災を起こすカラクリを目の前で実演・解説しました。

また、昨今、地震に伴う電気火災の防止に向けて設置促進が図られている「感震ブレーカー」の機能や必要性についても紹介しました。

今後も、増加傾向にある電気火災の予防や感震ブレーカーの認知度の向上を図るとともに、啓発テーマや対象者に応じて工夫を凝らし、より関心を引く魅力ある広報啓発の展開に努めてまいります。



【電気火災実験室の様子】

◆ 「夏休み子ども消防士体験」を実施

多治見市消防本部（岐阜）

多治見市消防本部では、令和7年8月10日（日）、多治見笠原消防署において、未就学児童から小学生までを対象とした、「夏休み子ども消防士体験」を実施しました。

このイベントは、少しでも多くの子どもたちに夏休みのステキな思い出を作っていただくことを目的として実施したものです。

当日は、175人の親子が参加し、放水体験、煙体験、子供用防火衣装着体験、救急車乗車体験、廃棄用消防ホースリサイクル工作などを行い、子どもたちが好奇心に満ちた表情で楽しんでいる姿を見ることができ、署員の刺激になりました。



【廃棄用消防ホースリサイクル工作】



【消防士体験の様子】

◆ 「お泊り消防体験」を実施

富岡甘楽広域消防本部（群馬）

富岡甘楽広域消防本部では、令和7年8月16日（土）、17日（日）の2日間、公募後に抽選で選ばれた管内の小学5・6年生を対象とした、1泊2日の「お泊り消防体験」を実施しました。

当日は、普通救命講習、放水訓練、救助訓練などを行ったほか、夜は消防署に宿泊し、消防士の勤務を実際に体験していただきました。

また、子どもたちが真剣に取り組む姿を見ることができたことに加え、訓練を体験した子どもたちから「もっとやりたいです。」との声を聞くことができました。

初めての試みであるイベントを通じて、子供たちの前向きな言動は職員の励みとなるとともに、住民に対して消防業務のPRにつなげることができました。



【救助訓練の様子】



【記念撮影】

◆ 「夏休み特別企画～親子で楽しく学ぼう！備えて安心、防災チャレンジ～」を実施

岸和田市消防本部（大阪）

岸和田市消防本部では、令和7年8月17日（日）、当市のゆめみヶ丘防災センターにおいて、「夏休み特別企画～親子で楽しく学ぼう！備えて安心、防災チャレンジ～」を実施しました。

当日は、保護者を含め多数の小学生に参加していただき、防災クイズやマイ防災マント作りなどを実施したほか、小型はしご車の搭乗体験を行い、子どもたちが楽しむ姿を見ることができ、非常に有意義なイベントとなりました。



【イベントの様子】

◆ 消防参観日を開催

西条市消防本部（愛媛）

西条市消防本部では、令和7年8月17日（日）、職員の働きやすい環境づくりの一環として、消防参観日を開催しました。

このイベントは、職員家族などを消防署に招待し、職場への理解を深めていただくとともに、職員の意欲の向上と風通しの良い職場環境づくりを促進することを目的として開催したものです。

当日は、署内見学を行ったほか、放水、はしご車搭乗などのさまざまな体験を実施し、参加者の笑顔を多く見ることができました。

開催後のアンケートでは、「職場の雰囲気や仕事の内容を見ることができて良かったです。」との声を聞くことができ、職員・家族ともに充実した一日となりました。



【イベントの様子】

◆ 水難事故防止に関する啓発チラシを配布

豊橋市消防本部（愛知）

豊橋市消防本部では、令和7年7月19日（土）から8月31日（日）までの土曜日、日曜日、祝日に、当市を流れる1級河川豊川（とよがわ）の川辺において、バーベキューなどを楽しむ方を対象に水難事故防止に関する啓発チラシを配布しました。

これは、管内に多くの外国人も居住しており、水難事故も発生していることから、日本語だけでなくポルトガル語、タガログ語、ベトナム語の外国人向けのチラシを作成し、水難事故防止と安全意識の向上を図ることを目的として配布したものです。

期間中は、救命胴衣の必要性や飲酒後の川遊びの危険性について、相手に応じた言語のチラシを現地で手渡し、水難事故防止を呼び掛けました。



【啓発チラシを配布する様子】

【多言語チラシ（ポルトガル語）】

◆ 「はたらく消防の写生会」の入選作品展示会をデジタルサイネージ方式で実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁練馬消防署では、8月1日（金）から9月1日（月）までの期間中、DX推進の一環として、「はたらく消防の写生会」の入賞作品展示会をデジタルサイネージ方式で実施しました。

これは、業務の効率化とDXの推進を図ることを目的として、初めて実施したものです。

期間中は、本署の玄関、区役所、商業施設など全6か所で展示を行い、展示期間と展示場所を増やしたことで、受賞者家族のほか、施設を利用する多くの方々が足を止め、小学生の力強い作品に見入っていました。

なお、当署のホームページでも入賞作品を掲載しています。

今後も、さまざまな手法を検討し、より多くの方に伝える広報活動を展開してまいります。



【入選作品展示会の様子】

消防庁通知等

◆ **電子申請受付システムの導入に関する相談会のご案内について**

(事務連絡、令和7年8月20日)

消防庁予防課から各都道府県消防防災主管課、東京消防庁・政令指定都市消防本部あてに事務連絡が発出されましたので、お知らせします。

標記について、令和7年4月から国土交通省において、消防同意等の電子手続も行うことができる電子申請受付システムの運用が開始されました。

今般、各消防本部に当該システムの理解を深めていただき、導入を進めていただくため、電子申請受付システムの運営を行う一般財団法人建築行政情報センターより、別添「[令和7年度]電子申請受付システム導入相談会」のとおり相談会開催の案内がありましたのでお知らせします。
—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250820_yobou_jimu_1.pdf) に掲載されています。

消防庁予防課予防係
担当：谷川、櫻川
T E L : 03-5253-7523
Email : yobouka-y@ml.soumu.go.jp

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

① **トップ・セカンド記事**

② **知識・技術の伝承—教えて！消防技術—**

③ **女性職員の活躍推進**

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報 (No.0716) 1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号 (4/25発刊) 29ページを参照願います。

TEL : 03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcaj.gr.jp に送信願います。

④ **消防ワイド**

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL : 03-4500-6622 機関誌「ほのお」(消防ワイド) 担当：企画課 中西

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jp に送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcaj.gr.jpに送信願います。